

令和2年度第2回守谷市保健福祉審議会 書面協議結果説明書【健幸長寿課】

◎報告事項No.2 令和2年度第1回守谷市保健福祉審議会地域包括ケアシステム分科会の開催（書面開催）報告について

○委員の意見等（概要）

1. 佐久間委員

【意見】

基本目標1－基本施策1－1－⑤

熱中症予防訪問は、相談を受けた世帯だけなのか。

【回答】

熱中症予防訪問は、相談の有無に関わらず80歳以上のひとり暮らし高齢者で介護保険サービスや高齢福祉サービスを利用していない方を対象として実施しています。

（令和元年度対象者185人）

【意見】

基本目標3－基本施策1－1

乳製品や食事を届けたり、日常生活の援助で定期的な安否確認ができる制度は継続できるとよいと思う。

【回答】

今後さらにひとり暮らし高齢者が増加していくことが予測されていることから、ニーズに沿った事業を計画・実施していきたいと考えています。

2. 金高委員

【意見】

報告事項No.2－① P6

高齢者の社会参加、生きがい対策の推進関連意見

高齢者増加（定年退職後）のなかで色々な知識、技能等をもっている方が上手く参加していただける為にボランティア活動の魅力・生きがい対策として社会活動することではないでしょうか、これには会話が一番大切であります。対話の中から新しい友人を見つけ、人脈も育つのではないか？今はコロナウイルス感染症のワクチン開発を待つのみです。

【回答】

ご意見ありがとうございます。定年の引上げ等で高齢者の雇用が促進されている現在、退職後の地域デビューのきっかけ作りが大切になると考えます。地域の中で社会参加が推進できるよう市としても支援していきたいと考えます。

【意見】

報告事項No.2-② P5

1-② 認知症初期支援チーム員とは、どのようなメンバーですか？

2-① オレンジカフェは、どこでいつ開催されたのですか。

【回答】

認知症初期支援チーム員は、地域包括支援センター等の専門職（保健師、精神保健福祉士、社会福祉士等）で構成されています。認知症の症状があるものの医療や介護サービスにつながっていない方への支援をすることが主な業務です。

令和元年度のオレンジカフェは、カスミフードテラス守谷店で9月、12月（3月は中止）、峰林荘の家族介護教室終了後（毎月）に開催しました。

3. 西川委員

【意見】

評価シートについて

○基本目標1 基本施策1 1 総合相談支援業務の強化

委託地域包括支援センターの認知度を高めるためには、担当者の顔写真付きチラシの作成→配布が有効と思います。

○基本目標1 基本施策4 1 認知症サポーター等養成事業

「一度受講したら終わり」ではなく、「何年かに一度、更新のための受講が必要」と感じます。

【回答】

ご意見ありがとうございます。顔写真入りチラシについては、委託地域包括支援センターと調整を行っています。チラシや広報以外にも、委託地域包括支援センターの認知度を高めるため、80歳以上のひとり暮らし高齢者及び高齢のみ世帯（令和2年度は460世帯）に熱中症予防訪問事業を6月から実施しています。

認知症サポーター養成講座受講後のフォローアップ講座を昨年度企画していましたが、新型コロナ感染拡大予防のために開催できませんでした。受講後のフォローアップについては、継続的に企画していく方針です。

4. 竹内会長

【意見】

審議経過 (2) ②意見について

意見に賛成である。第8期計画への反映や意見に沿った分析を望みます。

【回答】

評価シート、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の分析結果を、計画に反映できるようしたいと考えています。

今後は、分科会委員の皆さまのご意見をいただきながら計画策定を進めていく予定となっています。

【意見】

No.2-②に関して

「C」の事項について予算や体制の問題はないか検証されていますか？

【回答】

評価シートのCについては、令和2年度が第7期計画最終年度であるため、取組が進まなかつた事業においては注力していくものと見直しをかける事業に分けて調整しています。特に高齢福祉サービスについては、高齢者のニーズに沿った内容になるよう検討し、第8期計画に反映できるようにしていく計画です。

5. 清水委員

【意見】

審議経過は、的確にまとまっていると思います。

◎報告事項No.3 新たなフレイル予防対策（案）

○委員の意見等（概要）

1. 入江委員

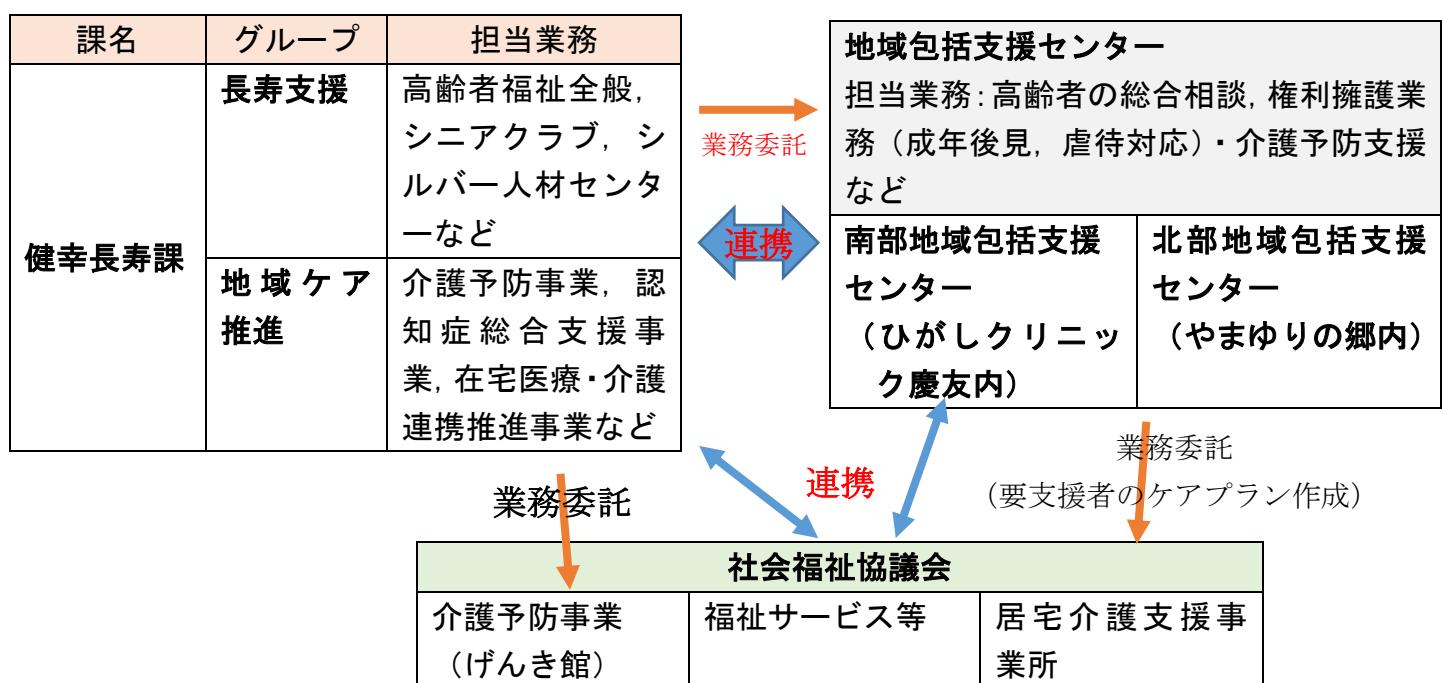
【意見】

健幸長寿課という組織と業務内容そして市役所・包括支援センター、社協との関わりについてお伺いしたい。

【回答】

健幸長寿課は、後期高齢者が増加していく中で、高齢者の介護予防、認知症の多様な施策が重要となることから、取組みを強化していくために設置された課です。

健幸長寿課と地域包括支援センターや社会福祉協議会は、業務の委託や連携を図りながら、高齢者の総合的な支援を推進します。



【意見】

（株）カスミの移動スーパーについては市内においては地域ごとに大きく差があるので分析・精査して早く実現してほしいと思います。

【回答】

移動スーパー導入に向けて、現在各まちづくり協議会にて、販売場所等の意見を聴きながら調整しています。

【意見】

高齢者も気軽に外食できる割引クーポンを配布したらどうか？

【回答】

ご意見は参考にさせていただきます。

【意見】

高齢者にも分かりやすい、チラシの配布やPRを行ってほしいと思います。

【回答】

文字の大きさ、イラストの活用などで高齢者にも分かりやすいチラシが作成できるよう、市全体で取組めるようにしたいと思います。

2. 西川委員

【意見】

特に女性は、自ら買い物をすることが楽しみである人が多いと思われます。その楽しみを継続して持ち続けてもらうためにも、「移動スーパーの導入」は大変有効であると思われるため、他市町村の行事例を参考に早期の購入に向けて取組んでいただきたい。

【回答】

ご意見ありがとうございます。

現在、他市の情報を収集しながら導入に向けて調整しているところです。

3. 竹内会長

【意見】

フレイル対策として、栄養についての取組みはありますか？

【回答】

出前講座として、各地域に出向き健幸長寿課の管理栄養士が、フレイル予防の講話を実施しています。また、広報やホームページを活用し、フレイル予防のためのレシピ等を掲載しています。毎年、専門職（作業療法士、管理栄養士、歯科衛生士、保健師）によるフレイル予防教室も開催し、栄養についても取組んでいます。

4. 清水委員

【意見】

「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の分析結果から課題を見出し、移動スーパーの導入について、今後具体的に取組むことに期待します。

① みずき野地区の意見を参考にする。

- ② スーパーなどの店舗の空白エリアへ試験的に導入し、さらに拡大する。
- ③ 地域住民の意向を尊重する。

【回答】

ご意見ありがとうございます。現在、移動スーパーについて各地域の声を把握するために、各地区まちづくり協議会において説明に伺っています。各地区のニーズを反映できるよう調整したいと考えています。

5. 野呂委員

【意見】

フレイル予防についてですが、言葉自体初めて知りました。イメージが湧かないので、「フレイル予防（介護や寝たきり予防）」など分かりやすくした方が高齢者に伝わるのではないかと思いました。

また、カスミの移動スーパーについて、場所の選定はどのように行うのでしょうか？

【回答】

ご意見ありがとうございます。

フレイルと言う言葉は最近使われ出した用語で、これまで「虚弱」という言葉で表していました。フレイルと言う概念は、低下した機能が取組み次第で改善できるという状態です。高齢者自身が能動的に取組み、改善していくことができるこれを、「フレイル」と言う言葉として普及していきたいと考えています。

移動スーパーの販売場所は、ひとり暮らし高齢者等が多くニーズが高い地域、スーパーまで遠い地域などを勘案し場所の選定をする考えです。

◎その他

○委員の意見等（概要）

1. 清水委員

【意見】

地域包括センターの担当者の熱中症予防対策について

私の住む久保ヶ丘3丁目は、266世帯があり、高齢化率が非常に高い地区の一つです。

そこで、先日自治会からの回覧のお知らせにより、地域包括支援センターの担当者が、熱中症対策として80歳以上の単身者及び高齢夫婦の11世帯を個別に訪問し、注意を喚起することです。これから迎える猛暑の時期であり、新型コロナウイルスも未だ収束していない状況であり、大変有意義な取組みであると思います。

また、地域の民生委員や町内会・自治会とも連携を図り、虐待・DV防止、認知症対策、フレイル予防等に積極的に取組むことが肝要だと思います。

【回答】

ご意見ありがとうございます。これまで80歳以上のひとり暮らし高齢者の訪問を実施していましたが、近年高齢者のみ世帯の相談も多く受けていたことから、今年度は80歳以上の高齢者のみ世帯の訪問も実施しています。

今後、80歳以上の高齢者が増加していく中で、認知症声掛け模擬訓練を地域と組んで実施していきたいとも考えています。ご協力お願いします。